

夏の公民館事業の紹介

○八重原子ども 自然体験教室



小学生を対象に年間を通して自然観察を行う事業を青少年相談員と共催で実施しました。第一回目は公民館と内みの運動公園の水生生物の観察をしました。暑い中での開催でしたが虫を捕まえたり元気に参加してくれました。

○八重原地区家庭教育学級

「八重の桜」

小中学生の子をもつ親を対象とした「八重の桜」が7月からスタートしました。2回目はZoomに挑戦！オンライン開催の回もあり、コロナに対応した活動をしています。参加者を募集中なので興味のある方は公民館までご連絡ください。



■投稿方法

メールで送信する場合
件名・・まちかど川柳
①ペンネーム
②住まい(字名のみ)
③一句(五・七・五)
を記載の上、こちらに送信してください。
yaeharak@city.kimitsu.lg.jp



出会いは

両手で包み

歓迎す

シリウス(外箕輪)

題「かけはし文庫を思う」

館長が

受け継ぐ本と

いこいの場

シリウス(外箕輪)

持参する場合

用紙に記入し、公民館ロビーにある「まちなし文庫」に投函してください。



今回紹介するのは、丸山正樹さんの「デフ・ヴォイス」です。「デフ・ヴォイス」を直訳すると「ろう者(聴覚障害者の1区分)の声」となります。

9月5日(日)に閉幕したパラリンピックをご覧になり、障害を持つ方々への理解を新たにされた方もおられると思いますが、本書でも理解をより深めることができると思います。

本書は「法廷の手話通訳士」とサブタイトルのつくミステリー小説です。主人公は、40代で職を失い、職安の勧めで「手話通訳士」の資格を取得する荒井尚人さん。尚人さんは、両親が「ろう者」であったため、ろう者の気持ちの分かる通訳士として評判になり、「法廷通訳士」の依頼を受けることとなります。ところが、聴こえない被疑者と聴こえる刑事や検事・弁護士との間で、被疑者の言い分がなかなか理解されず悩み苦しみます。

尚人さんは、法廷通訳士として真実を明らかにできるのか？それは読んでのお楽しみ

オトナの体験教室 「季節の折り紙教室」 参加者募集

日時・11月5日(金)、12日(金)
午前9時30分～午前11時30分

会場・八重原公民館
講師・河野美保子氏

持ち物・筆記用具、のり
参加費・200円(折り紙等
材料代・初回集金)

定員・12名(先着順)

※市内在住・在勤・在学者
申込・八重原公民館の窓口・
電話にて(氏名、住所、電
話番号をお伝えください)
申込期間・10月1日から29日
まで



です。(BOOKサロンかけはし
し 山口一也)
*本書は、かけはし文庫にて
貸し出しをしています。

BOOKサロンかけはし...
館内にある「かけはし文庫」
の本を気楽に読める場、憩い
の場、語らいの場として八重
原公民館で開催しています！
ご興味のある方はご参加くだ
さい！

編集後記

新型コロナウイルスの影響で中止になる場合もあります。
※新型コロナウイルス感染症への対策を十分行いながら事業を実施いたしますが、感染リスクがゼロではないことをご了承の上、お申込みください。

コロナ感染者が激増し、私たちの生活が厳しくなっています。とは言え、ワクチン接種も進んでいますので、今が辛抱のしどころではないかと思えます。辛抱することを「忍ぶ」とも言います。「忍」は「認」であり、事実を認識することが、忍ぶことに繋がります。焦らず問題を認識し、忍んでいきましょう。

(おぼろたん)